

乳製品需給等情報交換会議（概要）

日時：令和元年10月4日（金）13:30～15:00

場所：農畜産業振興機構南館1階会議室

主な意見：

（東宗谷農業協同組合・ホクレン農業協同組合連合会）※

北海道の上期の生乳生産は前年を上回って推移している。後継牛頭数が増加基調であること、全道的に粗飼料の収量・品質ともに良いこと等から、引き続き増加基調での推移が見込まれることから、バター等の乳製品向けへの仕向けは昨年と比べ増加が見込まれる。

（（一社）全国消費者団体連絡会）

需給の見通しは全体では問題ないことがわかった。千葉で台風の影響が出ており、生産者を心配している。消費者によってはお気に入りのメーカーがあり、それが手に入らないということがあった。千葉の生乳生産量が2千トン減少したという話を聞いた。今後も起こり得る大規模災害に向けた対応の充実をお願いしたい。

（（一社）中央酪農会議）

都府県の生乳生産見通しは減少基調だったが、7月は涼しかったため下旬には前年の100%水準まで回復。8月は暑かったため減産。9月上旬は95～96%と、減産傾向が続く見通し。都府県の生産拡大に引き続き取り組む。

課題としては、去年、今年と地震や台風等の大型の災害が発生している。このような状況でも安定的な生乳生産を維持していけるよう検討している。

（日本乳業協会）

年末に向けて乳製品市場は安定的に推移している。生乳生産は今後増産傾向となることが期待される。バターは業務用の小物を各社とも積み増ししている。脱脂粉乳は需要が減少傾向で推移している。

（卸売業者）

市販バターの供給は昨年と比較して堅調に推移しており、大きな欠品はない。小売店においても現時点で不足感はない。

業務用ユーザーは夏の天候不順で乳製品の使用量が減少しており、台風15号の影響では生乳生産への影響を注視している。今後の増産に期待したい。小物のポンド、シートが不足した場合は、輸入物を増やして行きたい。

（全国スーパーマーケット協会）※

10月4日現在、バターの欠品はない。

（（一社）日本パン工業会）

バターでは、バラバターが国産は逼迫しており、供給は今年度も前年度を下回ると思われる。国産バター不足のしわ寄せがバラバターにきているのではないかと。国産バラバターの供給をお願いしたい。不足分は輸入で補っているが、最近入札の競争倍率

が高い。

（全国菓子工業組合連合会）

乳製品は十分に供給されており、不足感はない。

日 EU・EPA の影響によって、菓子の輸入増加を心配しているのので、少しでも原料である乳製品を安く供給してもらえるようお願いしたい。

（全日本洋菓子工業会）

去年に引き続き、今年も足りないという声はない。比較的安定しているので安心して

（（一社）日本洋菓子協会連合会）

混乱はなく、年末に向かってバターの供給不足が生じるとは考えていない。会員に対して安定供給でき、潤沢な在庫があると説明しても、卸売業者から暮れの供給が保証できないと言われることがあると聞いている。現況を正しく理解してもらうために、会員に対し、さらに情報提供に努めていきたい。

※ 欠席のため、書面で意見の提出があった。

（以 上）